

道央メタルが新工場

金属加工

美唄で11月最新レーザー機導入



【美唄】金属部品製造の道央メタル(海老原達郎社長、従業員53人)は11月から、本社(東5南6)の隣接地で新工場を稼働する。総工費は4億円。新型のレーザー加工機や鉄板を曲げるベンダー2台を導入する予定で、同社によると、現工場を含めた生産能力は2倍となる。

新工場は約1400平方メートルの鉄骨平屋造り。隣接する建設が進む道央メタルの新工場。奥は本社と現工場

る空き地1万8千平方メートルを5月に取得し、7月に着工した。完成は10月末。現工場と新工場を合わせた規模は1.5倍になる。新工場稼働に備え、管内から従業員5人を新規雇用した。

同社によると、3年前から岩手の産業用加湿器の工場から発注を受けるなど需要が増えており、供給能力を高める狙い。稼働後は新工場です。プレス機による量産に対応。現工場ではレーザー加工を中心とした中小ロット生産に応じ、受注規模に合わせて工程を選ぶ。

同社は農機具や電気製品、トラック関連など各種メーカーから発注を受け、月3千種の金属部材を生産。2018年3月期の売上高は前年比15%増の約5億3千万円で、3年ほど右肩上がりが続く。海老原社長は「最新鋭のレーザー加

工機の導入により、数量だけでなく品質の向上も目指したい」と話す。

(勝間田翔)